



愚痴のち

時々

間男

泥酔

お疲れさま

うーす!

ほんと悪いわねえ
今日もオバサンに
付き合わせちゃって

いやー 全然いいすよ
バイトの女の子と飲んでも
うるさいだけなんで

でも渡瀬さん
旦那さんの方は
大丈夫なんですか?

お? 旦那様のお仕事で
結婚記念日の旅行
キャンセルした話
再放送しとく?

えーつと...

ねー 聞いてる?

はいはい
聞いてますよ

でね



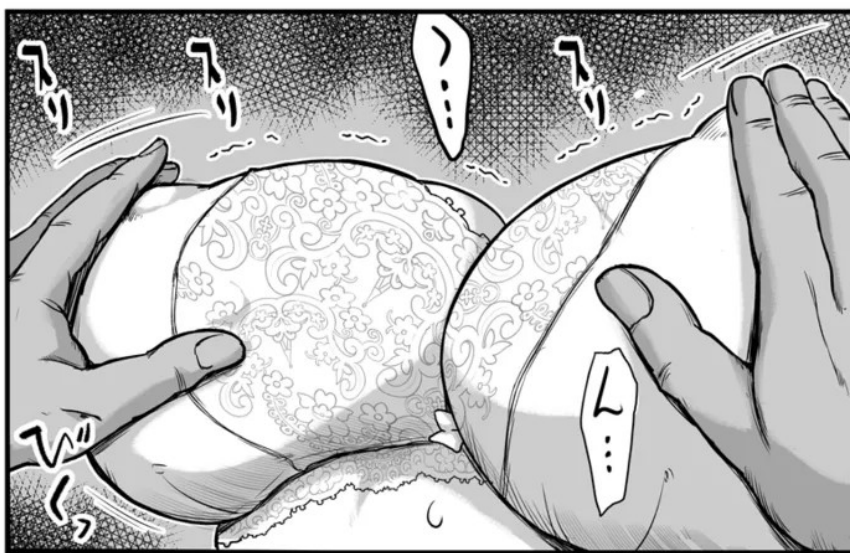
——つたくよお…

最後は惚気で終わる
つまんねー旦那の愚痴
何回も聞かせやがってよ

潰すところまで行くのに
何ターンかかるんだよ
ガード硬えんだよババア

ババアなんだから
サシ飲みしたら初回で
ハメさせてくれねえと
コスパ悪いんだよ





へい！
生(乳)二丁々笑

うお すっげ
スライムかよ笑

んっ…

ブルン

やば笑 ブラ
デカすぎだろ

乳くせえ〜

よいしょっと♪

おー 柔らけー

ん…う…

4
= 1

4
= 1





へへ いくらでも
伸びやがる

ババアのだらしねえ
垂れ乳じゃねえと
こうはいかねえよな

あ...

は...あ...

ムニウウウ

ぶるる

!!
!!?

おいおい

指どこまで
入るんだよ?
ツブしちゃうぞ?

グ
グ
グ...

グ
グ
グ...

グ
グ
グ...

グ
グ
グ...

クソ雑魚乳首を
じっくり仕上げて

おーイってる
イってる笑

ギョウ



それじゃあ
そろそろ俺も…

気持ち良く
なっちゃうかー

なっ
♡

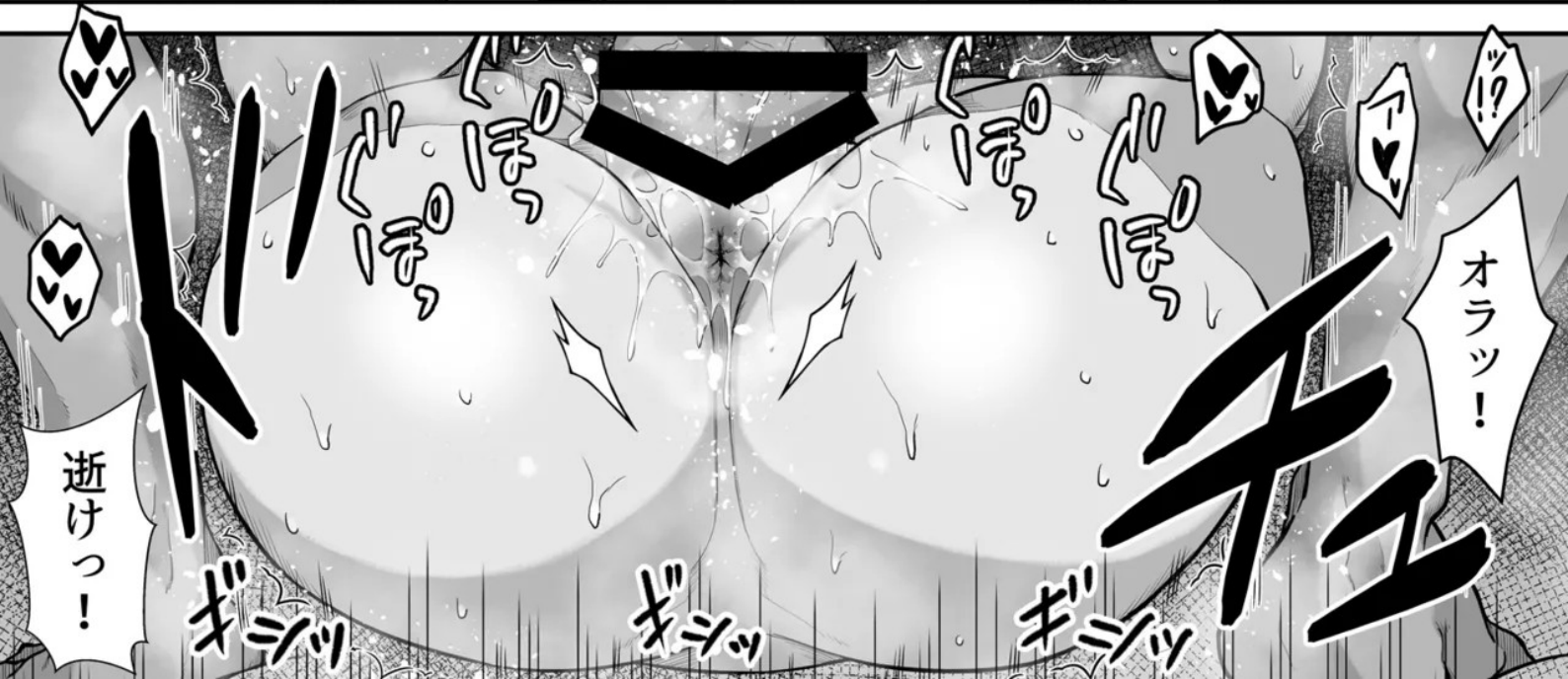


ギョッ

おお…!? 30年落ちの
中古オナホのクセに
締め付けやばっ…

久しぶりのチンポ
ぜってー逃がさない
って感じかこれ

ギョッ





つたくよ…
30 超えたババアが
搾り取っていい
量じゃねえぞ

たまにはババアで
味変くらいなの
つもりだったけど

これはガッツリ
いっとくかあ





あのね 20:00

大好きだよ 20:02

既読 20:02 俺も大好きだよ



ありがとう 20:04

じゃあまた後でね 20:05

既読 20:06 はーい、楽しんできてね～



本当にごめんね～
今晩は一緒にご飯食べる
約束だったのに…

19:53

いやいや
職場の友達の方
大事にして欲しいし
全然いいよ～

既読
19:55



終わったわ…

結構時間
かかったねえ

あなたが…っ…!!
そう…やって…
邪魔…するから…

あゝ 気持ち良くて
手止まったもんね
ごめんごめん笑

っ…!!

さて…

飯も食ったし
風呂入って寝るかあ…



.....大...きい...
こんな...モノを...
受け入れてたなんて...



でも今は意識があるし...
気持ちを強く保てば...
きっと...大丈夫...

なか...
腔内...いっぱい...
に...
拡がって...!

ふ...太い...!

大丈夫よ...
大...丈夫...



だめ...! 子宮...
押し上げられて...!

!!
こんな...
奥まで...!

だい...

お…お願い！
ちよつと待って！

ま…まだ…
動かさ—

もしかして
酔い潰れてなければ
抵抗できると思った？

でもさあ
意識があると

ガシツ

あっ!?

嫌でも旦那と俺を
比べることに
なっちゃわない？

ふざけ…ないで…!!

こんな愛の無い行為と
あの人と愛しあった記憶を
比べるわけ—

ほらあ これー
愛する旦那様と
比べてどうよ？

ドキ

ドキ

旦那さんので
こんな膣内
埋まったことある？

旦那さんとして
こんな奥まで
届いたことある？

あまりにあっけなく
あの人と愛しあった記憶は
最悪の形で利用され――

私は女がセックスの時に
どんな風に『鳴く』のか
初めて知った――

キュ

ズン





『敏感な部分に
激しい刺激を受ければ
相手が誰であつても
こうなるのは仕方ない』

こ…これ…
凄…い…

動かして…
ないのに…

奥…ずっと…
当たって…

最後に絶った
言い訳も――

な…何…これ…
こんなの…知らな…

いっ♡♡

これで台無し――

ぎゅううう

カッ

はっ♡

っ…あ♡

アジッ♡
イク♡

っ…あ♡
あ♡
あ♡

おー
よしよし

取り繕う言葉を
全て失くした
空っぽの頭で

おほ♪

ん…んちゅ…
ん…ん…う♡

ん…ん…
ん…ん…♡

私は夢中で
夫ではない相手と
唇を重ねた――



はい
ピースしてー笑

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

窓の向こうに
街が動きはじめる
気配がする中

愛する人を裏切った女の姿を
記録に残すシャッター音は

私の耳に
妙に心地よく響いた――

じわあ



んっ♡

はーい
いってらっしゃい♡

じゃあ
行ってくるーす



いつの間にか
台所に馴染んだ
カップ麺のダンボール

『一人で食べる時は
自分で用意する』

結婚する時に決めた
家庭のルールを
あの人はそれで守っている

先月買った分は
もう残り僅かだ



きっと今夜も

箱の中身は
一つ減るだろう



私は――

こ…こいうのは…
もつと若い子が
着るもんじゃ…

それをオバサンに
着せるから
みつともなくて
いいんでしょうが笑

ドキッ♡

ぷるっ

ドキッ♡

ドキッ♡

あなたねえ…



著者 くにふと

2025年12月

